

2010年東欧の旅

(ルーマニアの森林鉄道を尋ねて－ルーマニア・オーストリア・チェコ－)

2010・09・17 (金)

7:53 定刻に小竹駅を出発。博多駅よりタクシーで福岡空港国際線ターミナルへ。チェックインはまったく待たずに終了し、旅行保険の手続き後に出国手続きを行う。お土産店で手鏡を4枚購入し、例によって待合室でコーヒーを飲んで時間を過ごす。

10:30 定刻に出発、機内での食事は控えめに食べてインチョン空港へ。13:40 定刻に B747-400 にてパリへ向かう。毎回のことながら途中の長いこと！！映画を数本見て、居眠りを何回もしてやっと欧州上空に到着。

パリの CDG は広い！降りた滑走路から一番遠いターミナルだったので10分はかかったのかな？まずは入国（入 EU）であるが税関の窓口が二箇所と少なく行列になっている。その後トランスファー受付でブダペスト行きのチェックインを済ませ、搭乗口へ向かうがこれまた広い！ターミナルも継ぎ足し、継ぎ足しなのかしっかり歩かされた。

エアーフランスのブダペスト行きはバスで搭乗機までの移動で、小さめの飛行機であった。20:45 若干の遅れで出発するが空にはまだ夕焼けが残っていた。すぐに真っ暗な中の飛行となり、定刻前にブダペスト空港に到着した。いつものことながら荷物が無事に出てきたときにはホッとする。

両替を済ませ入国口をでると日本語で「末次さんですか？」と日本女性に声をかけられた。そこで逆に「タクシーは安心ですか？」と尋ねるとハンガリー人のご主人が日本語でタクシー乗り場に案内してくれた。タクシーは市内のゾーン料金（5200Fr or 24ユーロ）で安心して乗れるシステムになっていた。

ホテルにチェックインすると23:25と予定よりも早めに到着できた。シャワーを浴び、機内から持ってきたワインを飲んで就寝するが、寒さのためか時差ぼけのためか一時間おきに目が覚めた。

2010・09・18 (土)

6時前にチェックアウトを済ませ駅に向かうが小雨が降り続いていた。駅構内で国際線の切符売り場がわからずうろうろしたがやっと見つけ無事にバリデートを済ませ、朝食用のサンドイッチと非常食用にクッキーとチョコバーを購入しホームへ向かう。

まだ薄暗い中でブダペスト駅を定刻に出発。車両はきれいであつたが乗客は少ない。途中の景色はどこまでも平坦な平原地帯を走るが枯れたひまわりやとうもろこしの畑や放牧地が延々と続き変化に乏しく、小雨で薄暗くて残念な列車の旅であった。

ところが国境の駅で税関が乗ってきて私のパスポートをチェックし出国のスタンプを押すとパスポートを返すのでは無く、持ってくではないか、えーっ！！制服を着ているし心配ないよなー？と思いながら窓から後方を覗くと、別の職員が私のパスポート（ケースが極めて特徴的）を見ながら無線機で問い合わせをしていたのでじっと見てい

た。その後無線で返事が返って来るとパスポートを無事に戻してくれたが気持ちのよいものではなかった。



ルーマニア国境の駅

職員が再び私のパスポートを「スタンプを押すから」と持って行った。しかし5分経っても戻って来ず、少々不安になるがやがてスタンプの押されたパスポートを返してくれた。

ルーマニアに入るとやがて景色が変わり、まったくの平原地帯から低い山が見え出した。さらに溪谷を延々と走るようになるが横の川の色は茶色で水量も多く、結構雨が降り続けているものと思われた。トンネルも続くようになりくねくねと川沿いを上り詰めて行くが木々の葉の色づいてきているのがわかる。そして、なんと暖房が入りだしたではないか、これはやがて切れていたがびっくりである。そういえば足が冷たいし駅員などは防寒用の服を着ている。

ルーマニアは時差が6時間なのに気が付かず、空腹を覚えたら12時半となっていたのでレストランカーへ昼食を食べに行った。メニューがわからず Pork の単語だけを頼りに名前がジブシー・・を注文したが美味しかった。ビールも飲んでデザートにカプチーノも頼んで2500Fr（ハンガリー通貨；約1000円）であった。従業員は一人しか居ないために時間がかかってしょうがなかった。

Cluji Napoca にて乗り換えである。ここで現地通貨の Len（ロン）を手に入れなければならないので銀行のキャッシュディスペンサーで出金に行いいたが、なんと持参のキャッシュカードは「取り扱いできない」と出るではないか。二つの銀行の装置がともに同じ反応で使用をあきらめた。土曜日の午後のためか両替屋はあいておらず当座の資金と思い150LenをVISAカードで借りたが金利は高いもののクレジットカードで現金入手が出来るシステムはありがたい。

Viseu De Jos へ向かう列車に行くと車両に書いてある行き先が違う。発車時刻と出発のホームはあっているのに！車掌が居たのでたずねると後ろの車両に乗れ（言葉は通じていない）、とのこと。なるほど、二つの方向の列車が連結されてあったのだ。

列車は順調に走り、先頭の3両が分割されるとやがて峠越えを目指し、谷あいをどんどん登って行きだした。途中の景色は肥薩線の大畑付近をなんとなく思い出させるがス

どこが国境かわからないままに10分ほどで次の駅に到着したが、この間に新しい車掌がチケットのチェックに来た。今回の車掌はチケットの期日などのチェックのほかに二面についている列車の乗車記録をチェックし、乗車区間の記載漏れを指摘した。初めての経験であったが当然の義務なのですぐに記入した。駅ではルーマニア入国で、ここでも制服を着て拳銃もつけているから本物であろうが、税関

ケールは違う。途中駅でおばあさんが乗ってきたが話好きな様で全く通じないのに何度も何度も話しかけてくるので面白かった。



峠の頂上に着く頃にはうす暗くなり、1時間ほど峠を下った目的の Viseu De Jos には定刻の 20:28 に到着。数人の乗客が降りたが多くは右横の駐車場に向かうが私は暗い駅舎の中を通りぬけ正面に出るとマキシタクシー（ネット情報）と思われる車は居ないし、そもそも駅前には明かりのついた建物は無いではないか！

峠の駅（行き違い列車を待つ）すると一人の男性が「BORSA・・・」と言ったので「To Viseu De Sus?」という「ダー」、といて私の荷物を手に取り、助手席のドアを開けた。さー乗んなさいという雰囲気、黙って従って助手席に座る。荷物をトランクに置いて乗ってきた運転手にすぐに「マキシタクシー?」と尋ねると、そうだよ、ではなさそうなちょっとごまかしたニュアンスの返事が戻ってきたので、「How much?」と尋ねると、なんとかんとか！と言ったので手持ちの 41 Len を取り出すまづ 20 Len をとって、10 Len 札を半分に切るしぐさをした後に 1 Len 札を「OK」と言ってとった。

なお、マキシタクシーとはジャンボタクシーより一回り大きい十数人乗りの車両で、フロントに行き先が書いてあることが翌日わかった。

結局は白タクだったのだが途中で「キア?」と聞いてきたので「JAPONESE」と答え、続いて「ツーリスト?」と尋ねてきた。その後で「どこに泊まるのか?」と言ったようなので「Hotel BRAD」と言うと了解、といてホテルに直行であった。到着間際に何か言い出したが「目的は?」と聞かれたようなので「シュシュポップ!」という笑ってわかったようであった。ホテルに着くとホテルの中まで入ってきてどうも蒸気機関車に來た日本人だよ、と伝えたようであった、

この Hotel BRAD はインターネットのホームページから予約のメールを入れていたのだがまったく無視の反応でチェックインとなる。ロン (Len) での支払いを求められたが「カードは?」使えない!「ユーロは?」だめ!「両替は?」できない!「ロンで払いなさい!」で困ってしまうとパスポートを預かるから明日の朝払いなさい。であった。(言葉はまるで通じていないで感覚会話である)

チェックインの後、部屋に荷物を置くと直ぐに途中で目にしたスーパーマーケットに明日の食料を仕入れに向かう、途中の銀行でキャッシュカードを再度試すが同様に使用出来ず、やむを得ず VISA カードで再度キャッシュを取り出す。スーパーで朝食と非常食の食料と寝酒用にビールを購入するが支払いには VISA カードが有効であった。

入浴後にビールを飲んで就寝するが 23 時前であったが 2 時には目が覚めたがなん

と雨が結構降っているではないか！がっかりである。

2010・09・19（日）

6時の目覚ましで起きるが小雨が降り続いていし、吐く息が白い！ところでDocomoの携帯は滞在国が変わるたびに時差調整が自動で行われて現地時刻の表示となり、しかも日本時間も並んで表示されとても便利である。iPhoneにはその機能は無いことがわかった。また、日本に電話する際もDocomoの携帯は自動的に海外接続の設定になるので電話帳で目的の電話番号を選べば日本の目的の番号につながるが、iPhoneではその様にはならず、まずその国の海外接続の番号を回し、日本の国番号81を回しさらに電話番号も回さなくてはならない。

起床後、レストランは営業しておらず、昨日購入のパンとハムを食べ、非常食のクッキーとチョコバーを昼食用に回して7時過ぎに出かけた。フロントで70Lonを支払い、パスポートを戻してもらって駅へ向かう。地図とネットで調べた資料で道筋は簡単で傘が要らない程度に降る雨の中を目的のMocaniza鉄道駅に到着、約1.5Kmであった。



2両のSLが運用



日本人のカメラマン

早速チケットを購入し、さあ撮影開始！と思うとなんとこのために新規購入し持参したビデオが無いではないか！！パスポートを持ってこない積りでウエストバッグを持ってこなかったのを忘れてしまったのだった。代わりにリコーのCX-3で動画を撮ることにするががっかりである。

蒸気機関車（SL）の車庫に写真を撮りに行きたかったが職員がそちらには行っても駄目だ、というのであきらめていたが、やがて十人近くのグループが機関車庫へ行きだったのでこちらも付いて行くと車庫の機関士たち職員は何も言わず写真を撮ることができた。ここに数名の日本人のグループがビデオと写真を撮っていたので挨拶をするとびっくりしたようである。

さすがに森林鉄道で路盤が悪く、線路のつなぎ目もスムーズではなくジグザグしている。連結器もきちんと締めて無く緩いために前後左右に揺れ、力行、ブレーキの度にショックが来る。

車窓風景はほんの少し色づき始めたまさに峡谷の旅であった。線路は左岸に沿って走



左岸を走る S L

っており終点まではほぼ左岸を走っているので左側の席が正解である。



小川よりの給水



終点の休憩小屋

ごす人も居たが寒かった。

11:45 に帰路の旅が始まり、同じ景色を見ながら下るのであるが、下りだと連結された車両の自重で下る力と機関車の牽引する力がマッチせず、ますます前後の揺れはひどいものであった。帰路は単調でしょうがないな—と思っていたところ、途中でチャーターと思われる蒸気機関車牽引の列車に遭遇しあわてて写真を撮った。



チャーター列車とカメラの砲列

私は「こんにちは」と日本語で返事を返し、こちらからも声をかけて歩いた。怪訝な顔をする人ばかりだがあたりまえだろう。

ホテルに戻り、「食事はできる？」と尋ねるとレストランは営業していないようで、

途中で S L への水の補給の為の休憩があり全員が下車して様子を眺めていたが小川に水汲みのホースを投げ込んでの給水は初めて目にする光景であった。

同じ様な景色が続き 10:25 目的地に到着。休憩施設はあるが当然レストランなどはないので列車につんできた食料の販売が始まった。小雨でもあり、私は車内でクッキーを食べながら時間つぶしをするが同じように過

出発駅まで戻り、列車が車庫へと戻って行ったのでカフェでコーヒーを飲んで時間をつぶしながら、先ほど見たチャーターの列車が戻ってくるだろうと思い待っていると、「今日の列車は終わりで、次の列車は明日だよ」と云ってくれたのであきらめてホテルへ戻ることにする。

暇なので遠回りをしてホテルへ戻っていると挨拶の声をかけてくる人が多いので

外で食べてね、という雰囲気会話であったが日曜日とはいえホテルなのに一、と思った。昨夜駅から来る途中で見かけた大きな木造の教会を訪ねようかとも思っていたが雨で歩く気もしないので日記をつけて時間をつぶす。

18 時過ぎてお腹も減ってきたのでフロントでレストランの紹介を頼むとピッツァリアレストランを教えてくれたのでどう行くのと尋ねるとあっち、まっすぐ行けば良い、とばかりに指差す。おかしいなー、左に曲がった方向にあったような気がするけど・・・。まっすぐ行くとやはり店は無く、引き返して紹介の店に到着。これが大変！メニューがルーマニア語のみで写真はデザートには付いているが料理には無い。で、pork はわかったので検討で注文したが結構おいしかった。ビールとパンを頼んで4 1 Lenであった。

日曜日で昨夜のスーパーも開いておらずホテルに戻り、することが無いので2 1時には就寝する。

2010・09・19（月）

例によって夜半に目が覚めたがトイレの床がびっしょりでびっくり。暖房のお湯がポタポタと漏れていた。

5時半に起床、荷物の整理と日記の入力をして時間をつぶすがやはり雨が降り続いていた。やがて雨がやんだので時間つぶしを兼ねて、平日にSLが動くのかも確かめたくて機関庫まで見に行くこととする。月曜日なので人で多く、子供達も通学に歩いているし、馬車が大きな木を運んでいるのに出会った。

7:45 ころ機関庫の先に行くところちょうどディーゼル牽引の人車と木材運搬用車両をつないだ列車が出てゆくところであったのあわててビデオに収める。しかし、周りにまだ作業着風の人たちが居るので次の列車があるだろうと検討をつけて待っているとディーゼルが入れ替えを始めた。ゆっくりと準備が進み、さらに人も集まってきて8:40過ぎになって出発していった。

これでこの地の列車の撮影は終了である。町に戻り例のスーパーで食料を仕入れてからViseu De Susの町を発つことにする。荷物を詰めなおしチェックアウトに行くと7 0 Lenを請求されたが二泊分をなんとなく払ったつもりでいたが一泊分しか払っていないから、と言われたが確かにそうなので追加を払ってタクシーを呼んでもらった。

その際にViseu De Josまではいくらかを尋ねると1 5 Len位とのことであった。来た車は何と白タク！こちらでは当たり前なのだろう。で、駅に着くといくらと言うかなーと思っていたら何と1 3 Len のこと。一昨日の夜は相当にぼられていたのだった！！しかし、いなかったら約1 0 kmをどうしたのだろう・・・。



10:30の定刻をやや過ぎて2両(2等+1等)連結の列車が発車。ここからは一昨日通ったところなのでのんびりと思っていたが天気が良くなったためか車窓がきれいであり立ちっぱなしで外を見ていた。登りはわずかでサミットに到着、その後の下り区間が延々と続き、Viseu De Josが高地にあることがわかった。

2両連結(2等+1等)の鈍行 Salivaで乗り換えだが到着するとすぐに駅窓口に行き何とか次の列車の指定券の購入が出来た。今度の列車が優等列車で座席指定となっているのでそのまま乗ると罰金(割り増し料金)を取られることになっているので安心である。

ほぼ定刻にやってきた列車の指定席は結構込んでいるが車両はさすがにきれいであった。コンパートメント式なので「こんにちは」と挨拶をして席に座るが多くの人々が反応してくれた。Cluji Napocaまでは一昨日に通ったところなのでPCを開き日記の続きの入力をしたり、居眠りをして過ごす。

途中で一人の中年女性が私の横に乗ってきたがバッグはルイビトン、眼鏡はグッチとプラダで上品な感じで肥満系であった。さらに1組の夫婦が乗ってきて満席になった。その後長い徐行区間があつて、Cluji Napocaに15分ほど送れて到着。昼食を購入の予定があつたが停車時間が不明で不安であったものの機関車の交代が始まったので急いで買い物に駅舎まで行った。

Cluji Napocaで二人が下車し、室内が少々楽になって列車が発車すると進行方向が思っていたのと逆ではないか！結局一昨日と同じ経路を延々と戻ることになった。前方を見ると客車が4両増えており、機関車が2両で勾配に備えているのがわかる。

横の女性が英語でどこに行くのかと声をかけてきたので「Arad」と答え、「私もAradの自宅に帰るの」との話になった。その後は「暑いねー」との話があつた程度であった。

Cluji Napocaを過ぎての景色は一昨日と逆の方向を見ていたが結構広い谷あいを通り、一昨日は狭い谷間が延々と続いていたと思ったがそのような区間はわずかであった。しかし、下りの区間が延々と続きルーマニアは高原地帯だと思った。

列車はハンガリーとの国境駅の駅を過ぎると南下をはじめ、日が陰ってきた。そこでAradのホテルまでの地図を取り出して確認していると横の女性が「Arad city map?」と声を掛けてきてホテル名を告げると私の家はこちらとすぐ近くを指差し、「ホテルは良いホテルでちょっと駅から遠いよ」とのこと。で、私は歩くつもりだったので尋ねると「タクシーを使わないと・・・、私がタクシーに乗るから一緒にホテルまで送ってあげるよ」といわれたのでうれしかった。ルーマニアのタクシーはメーターが壊れていたり、

料金をごまかしたりするのが多い、ということになっているのでタクシー利用が心配であったのだ。

そこで私の今回の旅行目的を話し、カメラの SL の写真を見せると Viseu De Sus の蒸気機関車のことは知らないようであった。ご主人が列車の旅が好きでオリエントエクスプレスの旅もしたよ、主人に聞いてみようと電話をかけ主人も知らない、ということで、車内がしばしにぎわった。いよいよ日が陰って来ても車内の電気はつかず薄暗い中での話をしていたがいよいよ暗くなって車掌がやっとやって来て電気をつけた。

Arad に到着し、タクシーにのってホテルまで送ってもらったのでお土産に買ってきた手鏡を渡すと喜んでくれ、また来るためのために私の住所を教えたいが、といわれたがまた来ることは無いでしょうからと断ってしまった。ちょっと残念。

部屋に荷物を置くとホテルのすぐ近くの宮殿風の建物の夜景を取りに行き、その後ホテルレストランで夕食とす。Sheep と有ったのでそれを食べたがどうもラムと思われる味であったが・・・。ビールを二杯も飲んだ勢いでデザートホイップクリームがいっぱい乗ったアイスクリームを食べた。入浴後に PC で日本のテレビを見ていたらすぐに寝てしまった。

2010・09・21 (火)

5:15 起床。少々涼しくて数回目がさめたがアルコールのせいによく寝られた。早速 PC で日本のテレビを見ながら昨日の日記をつける。ほとんどが列車移動のみのわりには書くことがいろいろ有ったのですぐに六時になってしまった。

時間を気にしながら書いてしまうと六時半過ぎしまい、急いで荷物を片付け、チェックアウトを済ませ、ばたばた朝食を食べていたが時間が無い。徒歩は無理でトラムの利用も考えたがそれも無理そうで、朝食の途中でタクシーを依頼して朝食を終えた。

迎いのタクシーにて走り出してまもなくポケットの荷物を確認しているとビデオカメラが無いではないか！！慌ててホテルに戻ってもらい部屋のキーを再発行してもらい（ドアが PC 管理の鍵でチェックアウトにて変更になる）走って戻るが無い！レストランに行くが無い！ひょっとして最後に歯ブラシを戻したときにバッグ中に落ちたのかな？いづれにしても間に合わないのだからタクシーに戻ると運転席との間にビデオカメラがあるではないか！！座ったときにポケットから落ちたのだろうか？？よかったー！！

で、タクシーの運転手さんにチップをはずんで駅に着くと 7:25 になっていた。インターナショナル窓口を探し、座席指定券を購入したが昨日の指定料金の 10 倍強であった。ホームに出るとすでに列車が止まっているが切符の車両番号に合う車両が無い（号車番号ではなく車両番号が指定券に記載）ので車掌に尋ねると「そんな車両は無い、どこに行くのか？」と聞かれたのでブダペストと答えたら行き先が違う、次の列車だ、とのことで行き先表示を見ると先行の Iris 行きが遅れて止まったままだった。

駅構内の時刻表を見ると出発が遅れているようで、その列車が発車後に私の乗る列車も5分ほど遅れてきた。数分遅れで発車するが一等車の乗客は私だけであった。次の停車駅が国境の駅で停車中に出国の手続きが済んだが私の名前をメモして行くも問題は無かった。機関車の交換後に出発、しばらく走った次の駅でハンガリーの入国手続きでこちらもしっかりパスポートを見ていたが問題なく終了した。

平原の中を進むのみでぼんやりと外を見てすごす。Budapest には約10分遅れで到着、すでにウイーンへの接続列車の Rail Jet は入線していた。

A photograph of a train schedule board at Budapest Keleti pu station. The board displays multiple rows of train schedules, including destinations like Vienna (Wien), Prague (Praha), and other regional routes. The board is organized into columns for different train types and destinations, with times listed in both Hungarian and German.

Budapest Keleti pu 駅6番線の編成表 聞くと、とにかくに欧州中を回る考えのようで今日はブダペストからザルツブルグに行き観光をしてウイーンに戻ってくる予定とのこと、しかもホテルを確保していないとのことではますますびっくりである。

この Rail Jet は OBB（オーストリア国鉄）の新しい取り組みとそのための新しい車両でオーストリアを横断する幹線の改良とともに高速で都市間連絡をするのである。車内には列車の時刻を案内する TV が付いていたがそれは走り始めると走行速度と遅れによる到着予想時刻もリアルタイムで表示された。さらに交互に現在の位置が地図表示されていたので景色を見るのに大助かりであった。ちなみに、最高速度は160Km/h で日本の在来線の最高速度と一緒であった。

ウイーン到着まで時々、彼を見ていたら車窓にはまるで興味が無い様でもったいないな一と思った。最後に無事に回れるように伝えて分かれるが私の列車に乗って廻ることと蒸気機関車を追い求めての旅にはあきれたようであった。

新しい乗換駅になった Wien Meidling 駅にて待っていた Villach 行きの列車は5分ほど遅れて到着したが何とワルシャワからの列車であった。ほぼ定刻に出発するがウイーン南駅が無くなり新規に中央駅を建設中で経路が変わっていて初めての単線の路線を WienerNeustadt まで走った。

ここからは2回ほど乗車した経路であるがシンメリング路線はなかなか旨く写真が取れない。Unzmark の到着時刻になり出口に行くがなかなか到着せず別の駅名に次々に停まり、20分遅れの到着となった。当然接続列車は発車済みで次はなんと2時間後で、まーどうしようもないので駅のお店でコーラとチップを買って PC で日記の入力をする。

欧州の主要な駅には優等列車の編成表がプラットフォームに掲示してあり、大まかな停車位置がわかるので効率よく待っていることが出来る。

一等車は前2両のみであったが乗車すると後ろの座席で一地球の歩き方一を見ている青年が居たので声を掛けた。仕事の都合（変わる？）で40日間の休みが取れたのでやって来たとのこと。予定を聞くと、とにかくに欧州中を回る考え

Murau 行の列車は 2 名の乗客を乗せ、真っ暗な中を多くの駅は通過で、途中の乗客はゼロで終着駅に到着。料金を払おうとするともう切符販売機を占めたから料金はいいや！ で、5. 6 Euro をただにしてくれた。乗るときに料金を尋ねたので支払うものが居ることは判っていたのに余ほど早く帰りたいかったのだろうか？もう一人の乗客も料金を払わずにバスに乗り継いで行った。

徒歩でホテルに向かうが地図の見当どおりですぐに見つかり、チェックインを済ませ、レストランへ食事に行く。食事はビーフシチューの単品のみで当然ビールは飲んだがおいしかった。夕食後にインターネット接続を尋ねると WiFi 接続がなんとか部屋で出来るだろうとのことで ID と password を教えてくれたのでやってみた。出入り口のドアの前でのみ何とか接続可能で、ロケーションフリーで飯塚のテレビ番組を見ることが出来た。

入浴後洗濯をすませ、その後日記の記載を行い就寝。

2010・09・22 (水)

もう水曜日である。毎日を忙しく！でもないが何やかやありながらの変化が続くためか日にちが過ぎるのが早い。今朝は九時前にホテルを出れば良いのでゆっくりと朝の時間を過ごす。8:00 になり窓から見える山腹にあるお城？と教会を見て行こうと思い立ち急いで朝食に行く。

8:30 に朝食を食べ終えてキーを預けてから歩き出しですぐにビデオを撮ろうとしたらスイッチが入らない！何とバッテリーが入ってないではないか！！慌てて取りに戻ったがチェックの大切さをあらためて感じた。

ホテルにあった簡易の地図を見ながら登り口を探すと別に歩道がありそうなのでそちらを登りだした。その道のところどころにはお遍路さんのお堂ではないがキリストの生涯を描いたお堂が点在して番号が振ってある。たどって行くと山腹の教会にたどり着いた。お城？と思われる建物を一回りして教会の写真を撮ってから下山した。



ホテルの窓から山の境界とお城
とんど居なかった。

迷うことなく無事に駅に到着したがすでに SL は蒸気を上げていた。早速写真を取り始めると機関庫の奥の方に SL が置いてあるではないか。了解を得て庫内に入って行って写真を撮ったが庫内には 3 台の機関車が置いてあった。

10 時過ぎまで写真を撮りながら機関庫付近うろうろして過ごしたが乗客がほ

客車に向かうと 3/4 両がチャーターになっていたが出発間際にバスで団体がやって

来て満員になった。10:15過ぎて発車するが同じ車両にはサイクリストと思われる人たちが多かったが自転車はどうしたのだろうかー。

天気は快晴で青空と緑の山並みの中を走るのは大変気持ち良かった。午後の便を途中で撮影したいので撮影ポイントを探しながらでもあったが窓から一生懸命景色を見ながら、ビデオを主に撮りながらで乗っていた。途中駅からもサイクリストと思われる人たちが乗ってきた。Predlitz Turrach では給水停車があったので乗客がいっせいに写真を撮りに降りてきた。



Predlitz Turrach では給水停車 常は走っていない路線を踏み切りは車掌が手を上げて車を止めて客車の一部3両（団体の分）を牽引したまま走って行った。



車掌が車を止めて列車が行く
ってくるのを待ち撮影した。

結構開けた谷あいから北へ方角を帰ると勾配が急になり蒸気のドラフトが連続して強くなってきた。その途中の駅で停まってしばらく動かず調子が悪いのかやがて蒸気が十分に上がったのか動き出し終点 Tamusweg には10分ほど送れて到着した。乗客が下車したらまもなく列車が発車をするではないか！驚いたことに通

常は走っていない路線を踏み切りは車掌が

列車の時刻表がないのでいつ戻ってくるか判らないので急いで水と食料を購入しようと街中へ店を探しに行く、やっとスーパーを見つけたのでサンドイッチとソーセージ？と飲み物、おやつを買って駅へ戻ろうとしたら汽笛が聞こえた。急いで駅に戻ると列車が戻って機関車に石炭を積む準備をしていた。三脚をターン

テーブルの近くに準備をして機関車がや



人力のターンテーブル



Tamusweg を発車

入れ替えが終わり、SL が先頭車両につながれたので発車風景を取るために三脚を抱えて機関車の前方まで移動。13:35を少々過ぎて発車、無事に出発の風景をビデオも一緒に撮ったがなかなか旨く取れないものだ。

次の Zug(列車)は13:52発で2両のディーゼルで後ろの車両に乗ると通学の子供たち専用のようにになっていた。13:50になり駅舎の写真撮影を忘れていたので急いで駅舎の写真撮って戻ると後ろの車両はドアが閉められていた。これで置いて行かれたら・・・と慌てたが駅員さんが気づいてくれて無事に間に合った！

下りのためなのか列車は飛ばす飛ばす、途中駅では子供たちが順次降りていったが Predlitz Turrach で先に出た SL 列車に追いついた、しかも SL 列車の後ろに停まった。おそらく離合があるのだと思ったがすぐに対抗列車がやって来て、対抗列車が発車すると乗ってきたディーゼルカーがバックをして、SL 列車を追い越して発車した。



Murau 駅西側手前のカーブ
出来ていた。

Murau 駅まで戻り後続列車となった SL 列車を撮影するために少し歩いて戻って待ち構え撮影した。駅に戻り止まっている SL を撮影していると前面にかけてある列車のヘッドマークを取り外したので再度ヘッドマークのついていない SL を撮影することが出来た。この間客車の入れ替えがあり DL が先頭について午後
の SL 列車となるのであろう編成の準備が



Murau 駅にて看板を外した SL 予定外の SL 運行の中止で時間があるので
帰路に街中を一回りして、アイスクリームを食べながらホテルへ戻った。シャワーを浴び洗濯をしてから昼寝をし、起床後に日記をゆっくりつけた。その後夕食に行くが出かけるのが面倒で今夜もホテルのレストランで食べることにする。ビールは地ビールであったがうまかった！のどが渴いていたのだらう一杯で十分であった。再度日記を記載し早々に寝る。

2010・09・23（木）

やはり朝早く目が覚めた。朝の準備を済ませて荷物を詰めてしまってもまだ六時過ぎである。よって散歩に行こうと思い立ち外に出ると寒いこと！吐く息が白い、木々も色づいており秋を感じる。Murau Schloss へ向かう散歩道がすぐ近くにあり、まずお城に行き、市内を眺め横にある教会へ下る。教会の外壁に石の大きな板に名前や模様が刻んだものが多数貼り付けてあり、また壁画を記載した壁もあった。街の中心広場にはマリア像のある泉があり、一回りしてホテルへ戻るが寒い。谷間の町なのでまだ街中まで日が差していない。

洗面を済ませ、ひげをそって最終のチェックを済ませ、すべての荷物を持って朝食へ行く。しっかり朝食を取り、ちょっと遠回りをして駅へ行く。チケットを購入して列車を待つが早めの到着だが学生の降りてくること降りてくること！バスに乗り継いでいった。

定刻を過ぎても出発しないので心配したが10分遅れで発車、スケジュールに余裕があるのか飛ばしたいためなのか判らないが予定時刻にはUnzmarktに到着。ÖBBの列車も定刻にやってきた。

途中で曇ってきたので天気が心配になったが shimmering トンネルを抜けると快晴で、しばらくは立ちっぱなしでビデオカメラを抱えしばしば撮影を繰り返して峠を下った。Wien にはほぼ予定時刻に到着だが通った経路がよくわからず思ったのと違う方向からの進入であった。複雑は線路配置をしているのだろう。

約1時間の乗り換え時間なので駅前の通りに出てピザを食べる。薄いパリッとしたピザでよかったが具が少ないのが少々残念であった。やって来たプラハ行きの列車はWienerNeustadt 発であった。定刻に発車したが走り出すとすぐに停まったり動いたり徐行もしながらドナウ川を渡る。

しかし、Brno 到着は2分ぐらいの遅れだった。1時間の待ち時間があるので前回来た時に工事中であった中央広場を急いで訪ねたが街中のことは結構覚えているもので、間違わずにたどり着けた。改装された広場はトラムが走れるようになっていたがそれ以外は簡素で、建物の色も単調で少々がっかりした。

人通りは多いので道路が歩行者専用になって一般車両は進入禁止となっているのは歩きやすくてよかった。駅へ戻る途中でキャッシュカードを使ってチェコのお金 (Kč) を取り出してみたが問題なくお金が出てきたので安心した。

駅に着いて時刻表で乗車する列車の出発ホームを見ると5番ホームになっている。ところが地下道を見渡しても4番までしかないではないか！困ったと立ち止まると女性の車掌さんが通りかかりどうしたの？という感じだったので手で「5」を示すと付いておいでと先に歩き、5番、6番ホームの案内があるところまで連れて行ってくれた。表情会話である。

ホームに着くと15:20発のPlzeň 行きの急行が止まっているではないか！15:

39 発の列車に乗るつもりであったがこんな列車が有ったのだ、とばかりに車掌に次の乗換駅を示して OK とのことで急いで乗るとすぐに発車であった。で、乗車後に Telc への乗り継ぎが一列車前になることを期待して時刻表を調べると何と待ち時間が 1 時間も長くなるだけであった。がっかり！

広大な畑と森の景色が続き、いくつもの小さな峠を越えて乗換駅 JIHLAVA に定刻に到着したが途中は強い西日が差し込んでつらかった。ここで 1 時間半ほど暇つぶしをしなければならぬが地図によると街は大きいようだが駅は街外れにあるようで駅前にはコーヒーショップもなくトロリーバスが数台停まっていた。

待合室へ行くと 10 代の男女 4 名が大声できゃあきゃあ話しをしているが大変不快だし、品のなさが情けない。外は日が陰って涼しくではなく寒くなっているので外で待つのはちょっとつらいし・・・。

定刻に列車は発車 2 両連結で 1 両は 2 階建ての客車になっていたが構造上 1 階部分が低くなっている。乗降口もその低い場所にあるのでプラットフォームの高さがとても低いこちらでは乗降が大変楽で、大きな荷物を持った私も大助かりである。

約 30 分で乗り換えであるので乗り過ごさないように駅名を一生懸命チェックする。無事に乗換駅で下車できたが次の列車が見当たらない。始発のはずなのにと思い駅員さんに尋ねると地下道を通った向こうと教えられた。駅名の確認に気を取られ対向列車の裏側に停まっている列車に気がつかなかった。

2 両ディーゼルカーですっかり暗くなり、駅名に照明がない小さな駅を過ぎて行く。車内にテロップで常に何か流れているが駅名があり、Telc と目的の駅があるのはわかるがそれ以外の意味がわからないので怖い。「お知らせがなければ通過します？」だったらどうしよう・・・、ドアの横に赤いボタンが何か書いてあるので余計不安である。しかし、無事に車掌が教えてくれて Telc で下車できたが真っ暗である。

駅前から覚えた地図を頼りにさっさと歩く。間違いなく 10 分ほどで街の広場に到着、薄暗い街灯の明かりで町並みが見えるが期待できそう！そのままホテルにチェックイン、20 時 10 分ぐらい。すると夕食はサービスしていないので外に行くようにしかも 21 時くらいまでとのことで荷物を部屋に置くとすぐに出かける。

教えてもらったレストランを二件回ったがいずれも、もう食事のサービスはしていないではないか！もちろんこの会話は身振りと言語である。しかしこの程度の内容はこれで通じるから面白い。で、ピザレストランを紹介してもらいその店へ行く。幸いに営業中でしかも客はほぼ満席、ほかの店が食事を出さないためだろうか？だが、煙たい！！タバコを吸う連中の割合が極めて高いような気がする。

メニューがさっぱり判らず適当に指差し、スパゲッティ？と聞くと「そう、チーズ？トマト？」と聞かれたのでトマトで注文。やがて出てきたのは煮過ぎたスパゲッティにケチャップをからめ、溶けるチーズをたっぷり振りかけたものであった。空腹なので半分ほど食べたがこんなもの商品かよー！本物を食べたことあるのかよー！と言った

感じだった。

当然ビールは飲んだが、口直しに間違いの無いデザートにアイスクリームを食べてホテルへ戻る。このホテルでも部屋の出入り口で何とかインターネット接続が可能で日本のテレビを聞きながらメールチェックをし、シャワーを浴びて22時過ぎには就寝する。しかし涼し過ぎるので毛布を二人分着て寝た。

2010・09・24（金）

やはり？当然？5時に目が覚め、日記を記載するが外は真っ暗である。荷物の整理をしながら、日記をつけながら時間をつぶし、七時過ぎて広場に出て一回りする。天気は曇り空で少々がっかりであるし、寒い！吐く息が白い。



Telc のお堀の外より市街地を望む



Telc の中心広場

ホテルに戻り朝食中に二人ずれのお客さんがやって来ると日本語を話しているではないか、神戸在住の夫婦でレンタカーでチェコを巡っているとのことでした。

ゆっくり朝食後、広場から街の周囲の池の周りをぐるぐると写真を撮りながら回るがなにせ曇りが残念である。観光客がやってきてお城？の中に入って行ったので後ろから付いて行った。曇り空の撮影でどんな写真になっているのか心配である。

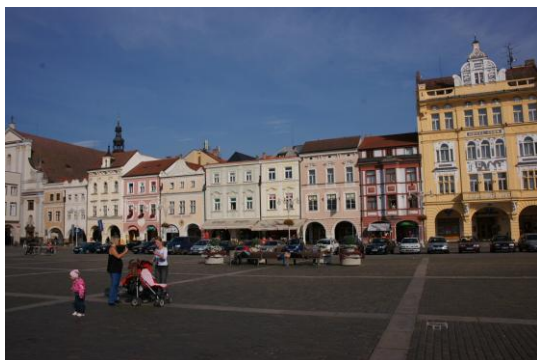
11時にホテルに戻りチェックアウトするが12時まで滞在可能だったので助かった。ホテル入り口にあるケーキショップでケーキを食べて昼食とし、駅に向かう。

12:03発の列車でCheske Budejoviceへ向かうが、乗換駅で時間があるので数駅戻りJihlavaにて乗り換える。数駅分は往復だが何も無い駅で待つよりはマシである。途中は草原地帯を延々と走るが途中駅で貨物列車と交換するが編成は長いのばかりで貨物輸送は多いのだろうと思われる。途中で明日SLの写真撮影の為に戻ってくるJindřichův Hradecを通るが狭軌の列車が停まっているのが確認できた。

Cheske Budejoviceに着き駅前の地図を頼りにとりあえず広場に向かう。結構遠く歩行者専用になった大きな通りを抜け、堀を渡り15分ほどでたどり着いた。天気が回復して日が差し出して広場周囲の建物が明るく輝いていたので撮影し、その後ホテルへ向かう。

チェックイン後、再度写真を撮りに広場やその周囲を巡って写真を撮る。歩きつかれ

でホテルに戻ってもまだ18時前。シャワーを浴び荷物を整理し、日本のテレビを見て時間をつぶして20時前になったので夕食へ出かけた。



Cheske Budejovice の中心広場



広場の夜景

夕食はホテルを出て歩き出すとすぐにバドワイザービールを出すレストランがあったのでそこに入る。ビールはなんとなく美味しかったし、ステーキ肉は固めだが旨みがありこれも美味しかった。普通のビールと黒ビールと二杯も飲んでしまったのでつい帰りにアイスクリームを買ってしまった。部屋に戻り日本のテレビを見たが当然すぐに熟睡である。目が覚めたら放送が続いていた。

2010・09・25（土）

4時半に起床。PC の飯塚のテレビを見ながら日記を記入するがそれでもまだ5時半にしかなくておらず真っ暗で荷物をつめる、朝のお勤めもゆっくり済ませるが少々固めである。水分が少ないのかな。

7時になったのでチェックアウトに行くとレセプションのドアは閉まっている！ベルを鳴らして職員を呼び支払いを済ませる。その際に早いチェックアウトを告げていたので朝食の弁当（パック入り）をくれたが結構量が多く、外人さんは食べる量が多いのだと改めて思った。写真を撮りながら広場経由してゆっくり駅に行くが7：40には到着、暖かいコーヒーを飲みながら列車を待つ。

乗車後すぐに朝食とするがやはり量が多い。食べ終わって8：10定刻に発車、すごく正確で順調！後で何かありはしないかと心配になる。これから約1時間は昨日の道筋を戻ることになる。天候は曇りで雨が落ちそうである。

定刻に Jindřichův Hradec に到着すると、ホームの広軌の線路上に自転車式の作業車が子供を乗せて動いているし、昔の自転車思わせる大きな車輪が付いた手漕ぎの人車が置いてありお客を乗せている。驚いて見ていると横に居た男性が座れ、写真を撮ってやるとのゼスチャーで早速取ってもらった。

駅を出ると人が結構集まっていて屋台や遊戯施設も出来ている。さらにどんな関係か消防車が居て長いはしごを伸ばして見せているし、人工呼吸の訓練用のマネキンも置いてある。その奥に狭軌の線路があり、さまざまな車両、すなわち旧型の客車、貨車、DL、

旧型の DC に路盤工事用の作業車まで展示してあり、おのこの車両には説明と思われる掲示板が張ってある。



Jindřichův Hradec にて



SL の出発 (カメラマン多数)

DL に旧型の客車をつないで列車に乘客が乗っていてやがて出発していった。ひょっとすると SL は動かないのでは？と心配になった車庫の奥のほうで黒煙が上がっており、どうも SL らしかった。やがて一回汽笛が聞こえたので安心する。大きな荷物を持っているので奥までは行けず我慢する。DL の入れ替えがあったり、DC を車庫に入れたりするのを写真に取りながら待っていた。

小雨が降ったり止んだりするようになるが、SL が車庫から遠くに見える位置に出てきて石炭を積んでいるのが見えた。その後、バックで入線してきた SL は水を注水したりしてから、留置してあった旧型の客車を連ねた編成につながれた。その後待てども待てども動かず。先ほど出て行っただけの DL 牽引の列車が戻ってきたりしながら時間が過ぎ、SL が出てきて 1 時間近くたってようやく出発して行っただけ。もちろん連写とビデオ撮影である。

思いがけずチェコの SL をネットで探しあて、運よく日程に合い、それも帰国する土曜日に走行するのを撮影できたが本当に SL が走るのだろうかと思いつつ訪れたのだったので大変嬉しかった。周りに多くの人たちが SL を撮影し、しかも TV 局かと思われる撮影もあっていたが日本人は私しか居ないようであった。大満足でこの地の撮影を終える。

11:42 予定通りに帰りの DC が発車、きわめて順調である。Veseli nad Luznici にてプラハ行きに乗り換える。こちらの路線はいたるところで複線化工事があっておりしばしば徐行があったがほぼ予定時刻に小雨のプラハ駅に到着。駅の改造が有ったようでホームが二つ増えていた。

小雨ではカレラ橋に行っても写真が取れないのであきらめて駅近辺をうろつく。お土産を買うかどうか迷いながらお土産屋をのぞいて回り時間をつぶすが有名なスワロフスキーの店もあった。

17 時の空港バスに乗ったが一人であった。結構急いで走る運転手さんで雨の石畳は滑りやすく一瞬けつを振ったのでびっくりした。空港で早速チェックインしたが何と出

発時間が1時間20分遅れとのこと！！インチョン空港での接続時間が0になってしまっているのか！尋ねると何とか間に合うだろうということになっており、荷物にも短時間乗り継ぎのタグをはっている。しかしこれ以上遅れたら・・・、とのことだがなるようにしかならないのではない。

となるとインチョン空港での買い物が一切出来ないのだからこちらでお酒とチョコレートを買って帰ることにする。荷物が増えたー！！遅れたので食券をもらったがケーキとコーヒーだけで済ませビジネス客待合室へ行き日記をつけることにする。

ネット接続サービスがあったのでメールチェックをしたが日本のテレビを見るには通信速度が遅かったため日記を記載する。

20:45に1時間25分の遅れで出発。眠いが我慢して夕食まで日記の追加の記入をしながら待っていて、少なめに食べ終わると直ぐに寝てしまった。

目が覚めると外は明るくなっていたがまだまだ4時過ぎで日記のチェックを行った。朝食を済ませインチョン空港へ着陸したがなんと福岡行きの1時間前に到着でほっとする。

インチョン空港では福岡行きのボーディングパスを受け取り、ボーディチェックを受けてチョコレートを買って搭乗口へ行くとすでに搭乗開始になっていたのですぐに搭乗した。

機内に入るとすぐに「先生！」と声をかけられた。何と後輩のA先生が座っているではないか！実はプラハの空港内でA先生では？と思う姿を見かけていたがまさか！が先立っていたので声がかけられなかった。ところで、彼はイタリアでの学会旅行の帰りにプラハから大韓航空の同じ便に乗っていたのだ。イタリア滞在中はホテルを起点にレンタカーで往復をして写真を撮ってきたとのことであつた。

こちらの飛行機は定刻に出発、機内食がまた出てきたが果物だけを食べておしまいにし、定刻に福岡空港に到着した。

入国手続きと税関検査がすぐに終わり入国すると国内線行きのバスがあり、国内線ターミナルに着くとちょうど田川行のバスがあるではないか。新飯塚よりタクシーで帰宅して今回の旅行を全て無事に終了した。